

地方銀行における利ざやの改善と今後の課題

— 貸出金利引き上げのハードルは高まる一方、預金獲得競争は活発化 —

- (1) 上場地銀（地方銀行、第二地方銀行）の2025年9月期決算（中間決算）は、資金運用利益が改善し、コア業務純益は前年同期比3割増（図表1）。堅調な設備投資需要等で貸出が伸びたほか、日本銀行（日銀）の利上げを受けて、預貸利ざや（貸出金利回り－預金等利回り）も改善。
- (2) 各行の利ざやをみると、25年3月期（通期）は改善していない銀行も多かったが、25年9月期は大半が改善（図表2）。預金金利は政策金利に連動しやすい一方、貸出金利は個別契約となるため、引き上げは容易でなく、利上げの反映が遅れる傾向（図表3）。とりわけ地銀は固定金利貸出が多く、利ざやの改善には一定の時間が必要。
- (3) また、銀行の規模によって収益改善幅に格差が存在。小規模な地銀を中心に資金運用利益の改善は小幅で、貸出金利を十分引き上げられていない可能性（図表4）。また、ビジネス成長力の差も広がっており、小規模な地銀では、貸出が伸び悩み、預金が減少している銀行も。
- (4) 日銀は利上げを継続する姿勢であり、地銀業績は改善期待。もっとも、政策金利が上がるほど貸出金利引き上げのハードルが高くなり、預金獲得競争は激化する公算。今後、地銀においては、融資先との対話や経営課題解決の支援を一層強化するとともに、人材・システム等への成長投資や事業多角化に向けたM&Aなども積極的に行い、競争力強化を図る必要。異業種との連携や、他行とのシステム・店舗等の共同化や再編も選択肢。

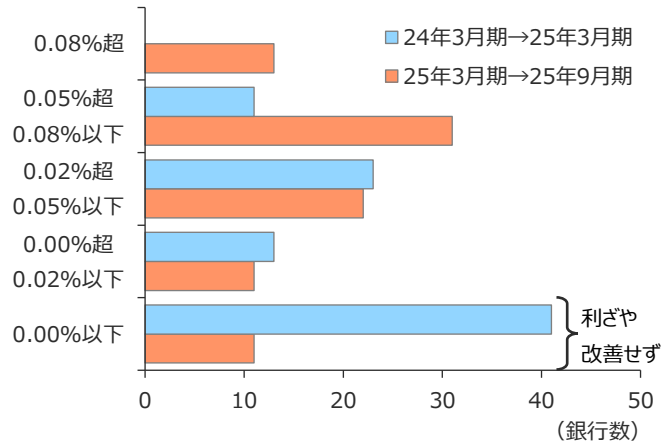
(図表1) 上場地銀25年4～9月期決算の概要

(億円)	24年 4～9月期	25年 4～9月期	前年同期比
資金運用 利益	19,502	22,255	+14.1%
役務取引等 利益	3,251	3,301	+1.5%
営業経費	13,164	13,896	+5.6%
コア業務純益	9,065	11,649	+28.5%
貸出金	303兆円	315兆円	+4.2%
預金	381兆円	388兆円	+1.9%

(資料) 各社決算を基に日本総研作成

(注) 前年同期と比較可能な88行（24年度以降経営統合した銀行を除く）。

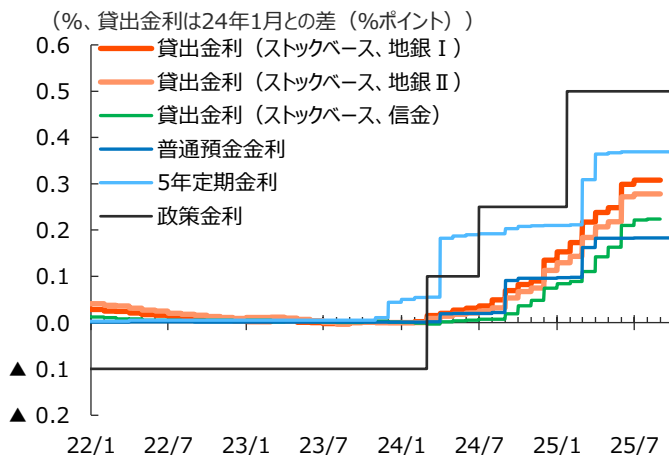
(図表2) 預貸利ざや改善幅の分布



(資料) 各社決算を基に日本総研作成

(注) 図表1と同じ88行。国内部門データがある場合は国内部門。

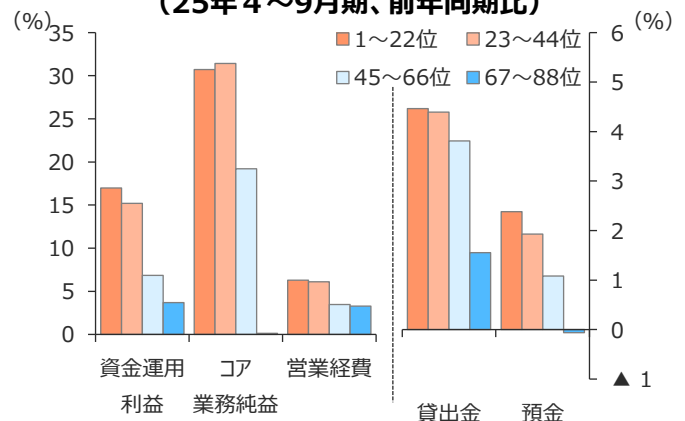
(図表3) 政策金利、預金金利、貸出金利の推移



(資料) 日本銀行、Bloomberg L.P.を基に日本総研作成

(注) 地銀Ⅰは地方銀行、地銀Ⅱは第二地方銀行。

(図表4) 資産規模別の利益・経費、預金・貸出金残高 (25年4～9月期、前年同期比)



(資料) 各社決算を基に日本総研作成

(注) 図表1と同じ88行。24年度末の総資産規模順で4区分。

【ご照会先】調査部 主任研究員 大嶋 秀雄 (oshima.hideo.j2@jri.co.jp, 090-9109-8910)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものです。情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。